

国や東京都の動向

1. 国の動向

(1) スタジアム・アリーナ推進官民連携協議会

民間の資金や経営能力、技術的能力を活用した今後のスタジアム・アリーナの在り方について検討を行い、新たなビジネスモデルを開発・推進し、その公共的な価値を最大化させるため、官民が協働して議論を行う。

(2) スタジアム・アリーナ改革ガイドブック(スポーツ庁、経済産業省)より抜粋

スポーツによる地域振興及び地域経済の自律的成長に向け、地方公共団体が中心となって取り組むスタジアム・アリーナ整備に関して検討すべき項目を整理するため、スタジアム・アリーナ推進官民連携協議会のもとで「スタジアム・アリーナ改革ガイドブック」を作成することとし、その第1段階として、有識者の協力を得て「スタジアム・アリーナ改革指針」をとりまとめた。

① スマート・ベニュー

「スマート・ベニュー」は、「スポーツを核とした街づくりを担う「スマート・ベニュー」」(2013 年8月スマート・ベニュー研究会・株式会社日本政策投資銀行地域企画部)において提言された新しい概念である。

「スマート・ベニュー」は、多機能複合型、民間活力導入、街なか立地、収益力向上をキーワードとして、「周辺のエリアマネジメントを含む、複合的な機能を組み合わせたサステナブルな交流施設」と定義されている。従来の郊外立地で単機能のスポーツ施設を、街なかに立地し公共施設や商業施設などの複合的な機能を組み合わせたスタジアム・アリーナとすることで、施設の事業継続性と周辺地域への外部効果を発揮し、将来世代に負担を残さない施設としていくものである。

スタジアム・アリーナは、必ずしも「スマート・ベニュー」の概念をすべて兼ね備える必要はないが、サステナブルな交流施設となり得るような多機能複合型、民間活力導入、街なか立地、収益力向上などやエリアマネジメントの実現可能性について、地域の実情を踏まえた十分な検証を行うことが望ましい。

② スタジアム・アリーナにおけるスポーツの価値を最大化するために地方公共団体が意識すべきこと

スタジアム・アリーナにおけるスポーツは、主にプロを中心としたスポーツチームによって行われる興行になると考えられる。このようなスポーツに対しては、我が国のプロスポーツ発展の歴史やアマチュアリズム等を背景として、単なる企業活動や企業広告に過ぎず、公共による財政負担は不適切であるとの意見もある。しかし、スポーツチームは、発信力・訴求力を有する行政のパートナーとして、社会課題の解決等、公共性のある波及効果をもたらす潜在力を有している。スタジアム・アリーナの整備に取り組む際に、行政とスポーツチームが連携して、これらの取組を整理しておくこと等により、公的な支援を行う正当性を担保できる。

その上で、スタジアム・アリーナの整備の主体となる地方公共団体は、「観るスポーツ」の価値を認識し、整備の早期段階から継続的にスポーツチームと連携し、スポーツチームが必要とする施設を可能な限り計画・設計・建設に反映させるなど、スポーツの可能性を最大限活用できるようにすべきである。また、運営面においても、固定観念や前例主義により根拠なく「観るスポーツ」の魅力を高める提案を制約することは結果的に地域によって不利益であることを認識し、「観るスポーツ」の価値が発揮されるように、必要に応じて制度の見直しも含め、柔軟な対応が行われるべきである。

2. 東京都の動向

2017 年度、東京都スポーツ推進計画(平成 25 年3月策定)に東京都障害者スポーツ振興計画(平成 24 年3月策定)を包含した新たな計画を策定している。計画は「する・みる・支える」の3つの視点から 33 の政策指針として整理し、具体的な取組を明らかにしている。

資料: 東京都スポーツ振興審議会(第 26 期第 5 回)配布資料

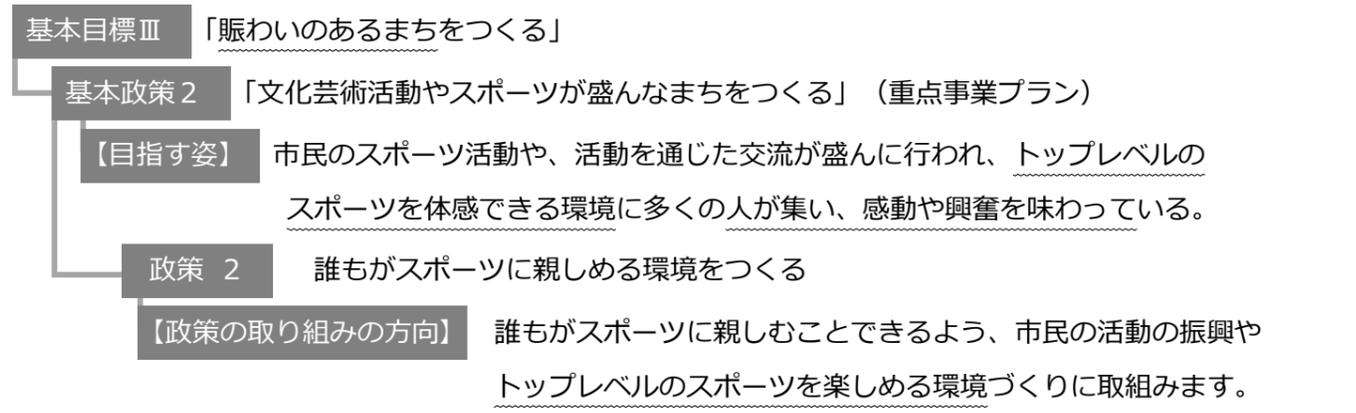
	政策目標1 スポーツを通じた健康長寿の達成	政策目標2 スポーツを通じた共生社会の実現	政策目標3 スポーツを通じた地域・経済の活性化
するスポーツ	【政策指針】 1 スポーツをすることへの関心喚起 2 スポーツを始める機会の創出 3 スポーツを身近でできる場の確保 4 スポーツの継続に向けた支援(地域・職場・学校でのスポーツ振興) 5 競技力の向上を通じた青少年の健全育成	【政策指針】 12 誰もが楽しめるスポーツの理解促進 13 障害の有無に関わらないスポーツ振興 14 年齢に関わらないスポーツ振興(子供・高齢者のスポーツ振興) 15 性別に関わらないスポーツ振興 *1 16 誰もが安心して利用できるスポーツ環境の整備 *2 *1 トランスジェンダーへの対応を含む、*2 外国人への対応を含む	【政策指針】 23 官民連携によるスポーツ気運の醸成 24 東京をPRするスポーツイベントの開催 *3 25 地域におけるスポーツ活動の活性化 26 地域や経済を活性化させるスポーツ拠点整備 *3 スポーツツーリズムの振興を含む
みるスポーツ	【政策指針】 6 スポーツをみることの魅力発信 7 スポーツをみる機会の創出	【政策指針】 17 みる障害者スポーツの魅力発信 18 障害者スポーツの観戦促進 19 誰もが気軽に観戦できるスポーツ環境の整備	【政策指針】 27 スポーツ観戦の魅力発信 28 アスリートの活躍を通じたスポーツ気運の醸成 29 国際的なスポーツイベントへの支援 30 スポーツ施設における観客の満足度向上 *4 *4 スポーツ施設のICT化を含む
支えるスポーツ	【政策指針】 8 スポーツによる事故防止等の推進 9 スポーツを支える人材の育成 10 スポーツを支える場の提供 11 スポーツを支える都民の顕彰	【政策指針】 20 多様なスポーツの振興に向けた人材の育成 21 多様なスポーツを支える基盤づくり 22 スポーツを通じた社会貢献	【政策指針】 31 テクノロジーを活用したスポーツに係る技術開発等への支援 32 スポーツに関する市場開拓への支援 33 地域や経済の活性化に寄与した団体等の顕彰

3. 町田市のスポーツ推進の現状

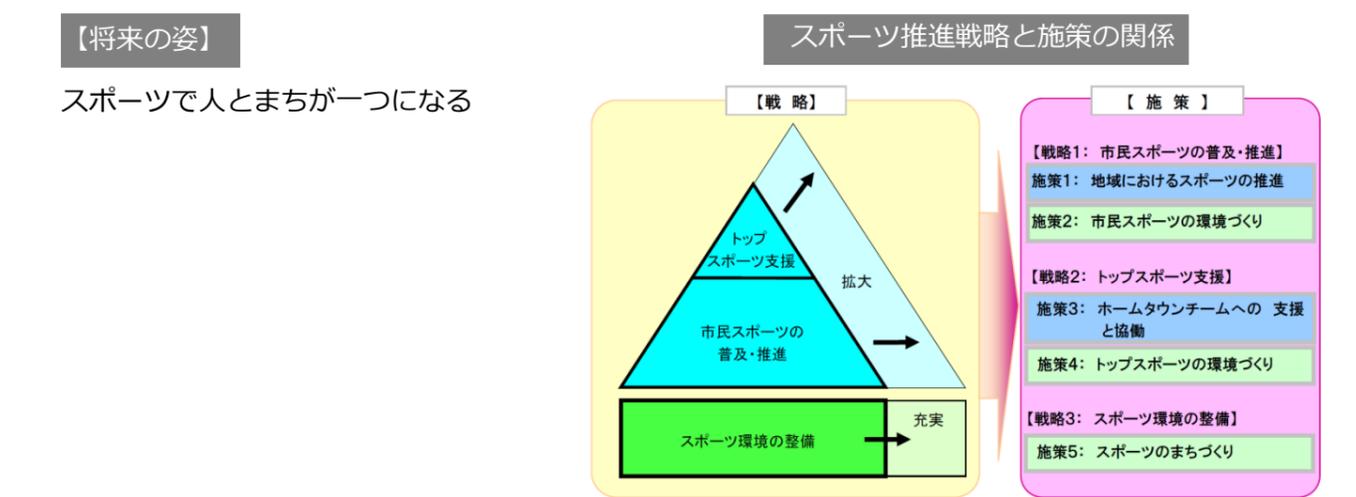
(1) 市の基本計画におけるスポーツの位置付け

まちだ未来づくりプラン
 将来の町田市のあるべき姿を見据え2012 年度から2021 年度までの10年間に、何を目標に、どのようにまちづくりを進めていくのかを示す町田市の基本計画

町田市5カ年計画 17-21
 「まちだ未来づくりプラン」の後期実行計画



(2) 町田市スポーツ推進計画



(3) ホームタウンチーム

ホームタウンチームとは、町田市スポーツ推進条例において、「市内を本拠としてスポーツ関連活動を行う法人その他の団体のうち特定のスポーツ競技において国内における最高水準の組織に所属し、又は所属することが見込まれるものであって、市長の承認を受けたものをいう。」とあり、現在下記の 3 チームが該当している。また、町田市スポーツ推進計画の「トップスポーツの支援」において「ホームタウンチームへの支援と協働」を行うこととしている。

- ・FC町田ゼルビア(日本プロサッカーリーグ所属)
- ・ASVペスカドーラ町田(日本フットサルリーグ所属)
- ・キャノンイーグルス(ジャパンラグビートップリーグ所属)

観戦環境充実のための諸条件

1. 陸上競技場

(1)各競技の実施にあたっての条件

①J1リーグ、なでしこリーグ

1)スタジアムに求められる観戦環境

快適性:①屋根の必要性、②トラックの取り扱い
 適合性:①周辺環境への適合性、②地域社会との関係
 安全性:①震災・火災等、②緊急医療、③観客の暴徒化

資料:財団法人日本サッカー協会「スタジアム標準」より

2)ピッチ/芝面/フィールドの寸法

スタジアムのクラス	ピッチの寸法	芝面のサイズ		フィールドのサイズ	
		サッカー場	多目的	サッカー場	多目的
クラスS	長さ:105m 幅:68m	長さ:115m以上 幅:78m以上 ※ピッチの外側5m以上	長さ:108m以上 幅:71m以上	長さ:115~125m 幅:78~85m	陸上トラックを含む大きさ
クラス1			長さ:107m以上 幅:71m以上		
クラス2					
クラス3					
クラス4	長さ:最少90m 幅:最少45m	ピッチを基準とし、ピッチ周辺部に競技上、危険を及ぼさないだけの余幅をとること			

資料:財団法人日本サッカー協会「スタジアム標準」

スタジアムの検査項目(一部抜粋)

検査基準
○=必ず具備しなければならない条件
★★★=具備が必要とされるものの、期限については今後検討を続けていく条件
C=具備することが望まれる条件

必須とされる設備	内容	検査基準	備考	
1.入場可能数 ※	J1は15,000人以上、J2は10,000人以上(芝生席はカウントしない)	○		
I・スタジアム規模	(1)観客席	椅子席で、10,000席以上の座席があること(ベンチシートは1席あたりの幅を45cm以上とする)	○	
		全席個室であること	C	
		どの座席からも、ピッチ全体が見渡せること	○	
		すべての座席に番号を分かりやすく付けること	★★★	
		高密度Wi-Fiが利用できること	★★★	
(2)車椅子席	介助者の椅子を備えること	○		
	観戦の際の安全が確保されていること	○		
(3)VIP席	高密度Wi-Fiが利用できること	★★★		
	メインスタンド中央部でスタジアム全体が見渡せる位置に屋根付きで個席90席以上設置すること	★★★		
	80席以上設置すること	C		
(4)マッチコミッショナー席	高密度Wi-Fiが利用できること	★★★		
	メインスタンド中央部でスタジアム全体が見渡せる位置に屋根付きで設置すること	○		
	机付きで4名着席でき、ピッチの音が聞こえること(マッチコミッショナー、補助員、審判アセッサー、副審アセッサー)	○		
(5)記者席	テレビモニターを設置すること	○		
	LAN回線、共聴回線を設置すること	C		
	メインスタンド中央部でスタジアム全体が見渡せる位置に屋根付きで80席以上設置すること	★★★		
3.屋根	ノートパソコン、ノートが置ける十分な広さの机と電源を設置すること	○		
	Wi-Fiが利用できること	★★★		
4.照明	新設及び大規模改修を行うスタジアムについては、原則として屋根はすべての観客席を覆うこと	○		
	すべての観客席を覆うこと	C		
	屋根または照明に雷保護設備を備えていること	○		
	ピッチ内のいずれの個所においても照度1,500ルクス以上の明るさを保持し、均一であること	○		

※入場可能数:ホームゲーム開催時に使用可能な数を指し、下記(1)、(2)、(3)の合計数とする。

- (1)入場券が発券できる座席の数
- (2)(1)以外の座席の数(常設のVIP席、個室ラウンジのテラス席)
- (3)車椅子席の数

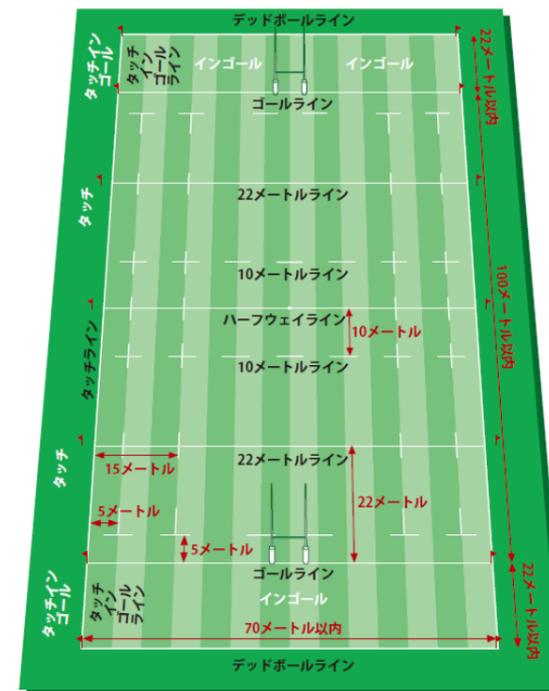
資料:公益社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)「スタジアム検査要項2017年度用」

②ラグビートップリーグ

1)競技場に必要寸法

- (a)フィールドオブプレーは、長さ100メートルを超えず、幅70メートルを超えない。両インゴールとも、長さ22メートル、幅70メートルを超えない。
- (b)競技区域の幅および長さは、できるだけ右記寸法に近づける。区画はすべて長方形である。
- (c)ゴールラインとデッドボールラインとの距離は、実際に可能であれば少なくとも10メートル以上とる。

資料:日本ラグビーフットボール協会「競技規則」より



③陸上競技大会

1)公認競技場の区分

	第1種	第2種	第3種	第4種
1周の距離	400m	400m	400m	200m,250m,300m,400m
距離の公差	+1/10,000以内	+1/10,000以内	+1/10,000以内	+各40mm以内
走路	直走路	1レーンの幅は1m220又は1m250で8レーン又は9レーンとする 長さ115m以上	1レーンの幅は1m220又は1m250で8レーン又は9レーンとする 長さ115m以上	1レーンの幅は1m220又は1m250で6レーン以上とする 長さ114m以上
	曲走路	1レーンの幅は1m220又は1m250で8レーン又は9レーンとする	1レーンの幅は1m220又は1m250で8レーン又は9レーンとする	1レーンの幅は1m220又は1m250で6レーン以上とする
障害物競走設備	必要	必要	無くても可	無くても可
補助競技場	全天候舗装400m第3種公認陸上競技場	全天候舗装の競技場があることが望ましい	無くても可	無くても可
各種跳躍場および各種投てき場	仕様を示す数	仕様を示す数	1ヵ所以上	1ヵ所以上で、条件に合わない場合は一部の施設を欠くことができる
	ただし、円盤投とハンマー投サークルは兼用してもよい			
収容人員	15,000人以上(芝生席を含む)	5,000人以上(芝生席を含む)	相当数	相当数
更衣室	300人以上収容し得ること	100人以上収容し得ること	利用できる設備があることが望ましい	無くても可
トレーニング場	第1種公認競技場ではウエイト・トレーニング場を必要とする			
雨天走路	メインカバックススタンド側にあることが必要。舗装材は競技場と同一にする	設備することが望ましい	無くても可	無くても可
トラックとフィールドの舗装材	全天候舗装の施設を要する	全天候舗装の施設を要する	全天候舗装の施設を要する	土質でも可

資料:日本陸上競技連盟「公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程」

(2)施設が抱える課題

- J1リーグを開催するためには観客席の増席が必要になる。
- 陸上競技場の公認を第3種から上位の公認を受けるためには施設の改修が必要になる。
- ラグビートップリーグの開催は現状の施設で開催できている。

(3)近隣市(都内や神奈川県内)の状況

施設名称	所在地	施設概要	大会開催実績	その他
相模原麻溝公園競技場 (相模原ギオンスタジアム)	相模原市	1周400mの全天候型舗装トラック、サッカー・ラグビー・アメフト等の試合も行える天然芝フィールド、15,300人収容可能なスタンドを兼ね備える。 ※1	明治安田生命 J3リーグ	・日本陸上競技連盟第2種公認 ・J3仕様
川崎市等々力陸上競技場	川崎市	3種公認全天候トラック 400m8レーン フィールド(サッカー併用) 大型映像装置 6.3m×20.0m スタンド収容人員 約 22,000 人 夜間照明4基 ※2	・明治安田生命 J1リーグ ・日本陸上競技選手権大会 ・アメリカンフットボール・ワールドカップ	・日本陸上競技連盟第3種公認 ・J1仕様
横浜国際総合競技場 (日産スタジアム)	横浜市	観客席は、国内最大の72,327席。フィールド内の興奮は、ハイビジョン自動走行カメラなどから両サイド2基の大型映像装置へ映し出されます。さらに、528台のスピーカーから伝わる音響で、臨場感を盛り上げます。観客席は、4分の3が屋根に覆われています。 ※3	・明治安田生命 J1リーグ ・2002 FIFA ワールドカップ ・日本陸上競技選手権リーグ競技大会 ・ジュニアオリンピック陸上競技大会	・日本陸上競技連盟第1種公認 ・J1仕様

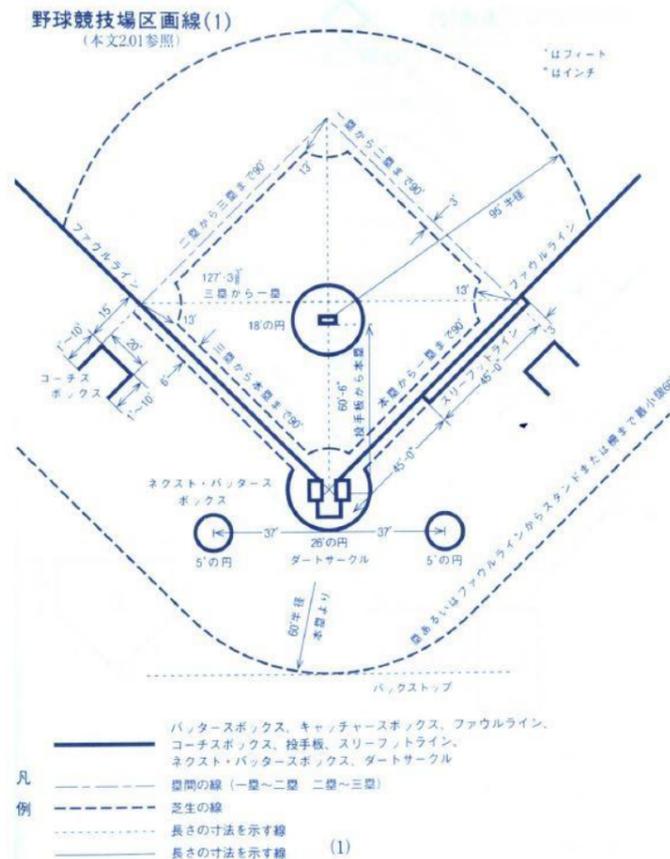
※1 相模原ギオンスタジアム(相模原麻溝公園競技場)HP
 ※2 川崎市建設緑政局「等々力緑地概要」H25.4.1 現在
 ※3 施設概要 | 日産スタジアムHP

2. 小野路球場

(1)各競技の実施にあたっての条件

①プロ野球二軍戦、大学野球、高校野球

競技場は、「公認野球規則」において、右図のような規格が設定されている。



資料：公認野球規則「2.01 競技場の設定」

(2)施設が抱える課題

- 観客席や駐車場が少なく、集客力のある大会や試合を開催できない。
- ネットの高さが低いため、ファールボールが球場外に飛び出すことが多く危険。
- 選手がウォーミングアップを行う場所がない。
- 騒音：規模の大きな大会時(野球)、近隣住民から応援等の声や音についてご意見をいただいている。
- 安全面：現行の高さのネットではファールボールが容易に越えてしまい、ロータリー等に落下する。(グラウンド利用者、付近での観戦者に当たる危険性を含んでいる)

(3)近隣市(都内や神奈川県内)の実施状況

施設名称	所在地	施設概要	観覧席等
サーティーフォー相模原球場	相模原市	両翼 95m、センター120m、スコアボード LED電光表示式、照明塔 6基 (プロ野球、高校野球などの公式戦可)	観覧席 16,064 席 (内野席 8,064 人、外野芝生席 8,000 人)
一本杉公園野球場	多摩市	両翼 91m・中堅間 120m(高校野球等アマチュア野球公式戦可)	約 2,000 人(ネット裏：長椅子、内野・外野：芝生席)

3. 室内プール

(1)各競技の実施にあたっての条件

①日本選手権水泳競技大会をはじめとする競技大会

公認プール	施設	大会
国際基準プール	プール公認規則に適用し、10レーン、水深 3m 推奨、国際大会に支障ない基準を備えるプール	・オリンピック・世界選手権・ユニバーシアード ・パンパシフィック・アジア大会・東アジア大会 ・アジア選手権・日本選手権 50m、25m ・ジャパンオープン 50m などを開催するプール
国内一般プール・AA	プール公認規則の国際プール又は一般プールに適用し、10レーン、水深2m以上の施設を有することが望ましい	・国体・インターハイ・日本実業団・インカレ ・ジュニアオリンピック・全国中学・全国国立などを開催するプール
国内一般プール・A	プール公認規則・一般プールに適用し、8レーン以上、水深 1.35m 以上を有すること(スタート台の設置)	・全国大会県予選・県大会・全国大会ブロック大会 ・全国マスターズ・本連盟主催主要競技会(日中戦、早慶戦等)・本連盟公認競技会などを開催するプール
標準競泳プール	プール公認規則・標準プールに適用し、6レーン以上、水深 1.0m 以上、(スタート台使用の場合：端壁前面6mは水深 1.35m 以上とする)を有するプール	市民大会・記録会・地域予選などを開催するプール

資料：公益財団法人日本水泳連盟「公認プール施設要領」

(2)施設が抱える課題

- 現在よりも上位の公認を受けるためには、レーンの増設や水深を深くするなど大規模な改修が必要になる。
- 施設の老朽化が課題となっており、施設の改修を実施する予定である。

(3)近隣市(都内や神奈川県内)の実施状況

施設名称	所在地	施設概要	観覧席等
さがみはらグリーンプール	相模原市	・50m プール 50m×25m 10 コース 水深通常 1.2m(可動床) ・飛び込みプール 22m×25m 水深 5.0m~0.4m(可動床) ・25m プール 25m×17m 水深 1.2m	・50m プール東・西観覧席 2043 席 立見席 1000 人相当 ・25m プール観覧席 椅子席 56 席
多摩市立 アクアブルー多摩 温水プール	多摩市	(温水プール)50mプール(深さ 1.2m)、25mコース、流波プール、アイランドスライダー、ボディースライダー、リラクゼーションプール、キッズプール 等	

4. 総合体育館

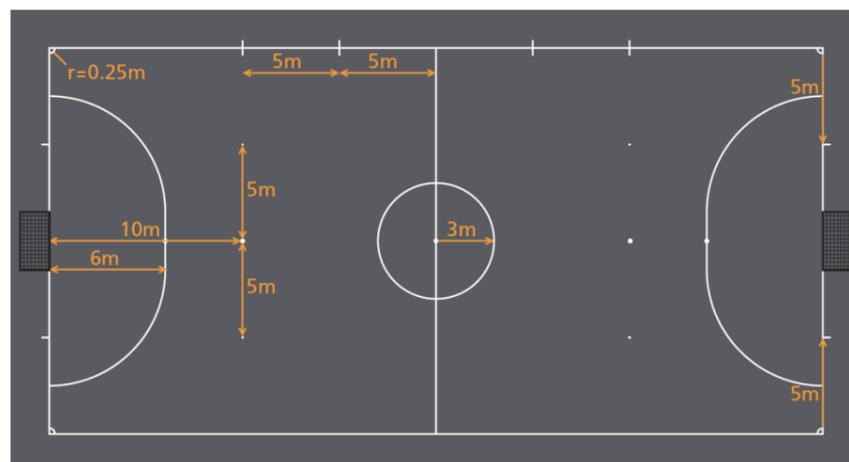
(1)各競技の実施にあたっての条件

①Vリーグ(バレーボール)、②Bリーグ(バスケットボール)、③Fリーグ(フットサル)

条件	Vリーグ	Bリーグ	Fリーグ
規則	Vリーグ大会運営マニュアル	ホームアリーナ検査要項	フットサル競技規則
座席数	3,500席以上 ※特設席含む	○B1:5,000席以上 ○B2:3,000席以上 ※可動席、仮設席等含む	(※参考値 ^{注)} ○国際試合 8,000席
大きさ	○フロア面積:25m×50m以上 ○競技場:19m×34m以上	○競技場:19m×32m以上	○国際試合以外:16m×25m以上 ○国際試合:20m×38m以上
更衣室	○選手4室 ○チアリーダー1室 ○審判	○1チームにつき1室	—
控室	○プレスルーム ○インタビュールーム ○技術統計記録室 ○本部役員控室 ○開催地役員控室	○医務室 ○ドーピングコントロール室 ○音響設備調整室 ○大型映像設備調整室 ○通信回線集積装置 ○電気設備室 等	—
照明	1,500ルクス以上	1,400ルクス以上	—
音響	場内放送設備完備	場内放送設備完備	—
その他	○室温調整 15℃～25℃ ○電話の設置 ○ネット回線設置	○空調設備完備 ○大型映像設備 ○床材は木製推奨 ○飲食関連施設の臨時設置 ○ネット回線 等	—

資料：Vリーグ大会運営マニュアル、ホームアリーナ検査要項、フットサル競技規則

注)一般社団法人アリーナスports協議会(2013)「アリーナ標準」



ピッチの大きさ

資料：フットサル競技規則

(2)施設が抱える課題

- VリーグやBリーグ(B1)を開催するためには、観客席が足りない。
- 控室として使用できる室場が限られている。
- 第二駐車場棟からの移動がバリアフリーではない。
- 周辺が住宅街であり、夜間の搬入搬出や準備は騒音問題により難しい。
- 会場内やロビーで試合を中継する大型モニターがあると望ましい。
- Free Wi-fi等のインターネット環境が整っていることが望ましい。
- 照明設備(水銀灯)は一度消灯するとすぐに点灯しないため、暗転・明転等の演出が難しい。
- 音響設備は老朽化により音割れや雑音が入ることがある。
- 搬入用のエレベーターがなく、大きな機材等を2階へ運ぶのが難しい。
- メインアリーナに付属するエレベーターは1台のみで混雑する。
- トイレの数が少なく混雑時は長蛇の列(特に女性トイレ)になることがある。
- 大型バスやマイクロバスを駐車できるスペースが少ない。一部駐車することはできるが、足りない。

その他

- 施設の老朽化が課題となっており、施設の改修を実施する予定である。
- 周辺コインパーキングも少なく、近隣道路の混雑、民間商店への違法駐車がみられる。
- タクシーの待機スペースがない。第二駐車場をタクシーの待機スペースにすることがある。

(3)近隣市(都内や神奈川県内)の実施状況

施設名称	所在地	施設概要	大会開催実績			観客席
			Vリーグ	Bリーグ	Fリーグ	
八王子市総合体育館	八王子市	○メインアリーナ 横 45m×縦 60m×高さ 15m	-	○	-	2,000席
多摩市立総合体育館	多摩市	○第1スポーツホール ・バスケットボール 2面	-	○	-	—
川崎市スポーツ・文化総合センター	川崎市	○大体育室:1,952m ² ○小体育室:994m ²	○	-	-	1,512席
横浜文化体育館	横浜市	○本館アリーナ 横 40m×縦 48m×高さ 13m	○	○	-	2,200席
相模原市立総合体育館	相模原市	○大体育室 横 36m×縦 61.5m×高さ -	○	-	○	1,598席
大和スポーツセンター	大和市	○第1体育室 横 36m×縦 59m×高さ 15m	○	-	-	2,152席